

テーマ：「地域に根ざした図書館作り」

講師：鹿児島国際大学短期大学部教授、鹿児島国際大学附属図書館長 種村エイ子氏

日時：平成 21 年 10 月 2 日(金)10 時～11 時 30 分

場所：鹿児島県民交流センター 東棟 4F 小会議室第 2

参加者：31 名

講演内容

要旨は以下のとおり。(当日配布資料に基づく)

○自己紹介

約 20 年間非常勤講師として司書・司書教諭の養成にあたる。1994 年に進行性胃がんが見つかり、5 年生存率 20%の宣言を受ける。立ち直った体験を『知りたがりやのガン患者』(農文協)にまとめ、1997 年からは「いのちの授業」も開始した。また、地域で、子どもと本の出会いを広げるグループ「かごしま文庫の会」、「子どもと本かごしま」の代表もしている。

○生涯学習時代の図書館

生涯学習時代の現在、自己選択・自己責任の積み重ねが、自分の人生を自分らしく納得して生きることへと繋がる。いつでも どこでも 誰にでも どんな本・情報でも届ける図書館が欠かせない。

○地域の情報拠点、知的インフラとしての図書館

平成 18 年 4 月 5 日に文部科学省が「これからの図書館の在り方検討協力者会議」の報告書をまとめ、これからの図書館像に地域を支える情報拠点をめざす、と報告した。キーワードは「地域や住民にとって役に立つ図書館」であり、地域の知的セーフティネットとして図書館は欠くことのできない施設である。

課題解決型図書館として、ビジネス支援・法情報サービス・医療健康情報サービス・子育て支援・行政支援・学校支援などが挙げられる。具体的に貸出、リクエスト、レファレンスサービスの充実や、関連資料の案内図やサインの整備、テーマ別資料の整備、文献探索・調査案内(パスファインダー)やリンク集の作成、また関係機関や団体との連携による講座や相談会の開催が挙げられる。

○健康医療情報提供&闘病記コーナー設置

闘病記を病気ごとに図書とネットで検索できる、「闘病記ライブラリー」や、ブクログ「健康情報の本選定ノート」により、自宅のパソコンからでも情報収集出来る、非来館型サービスも可能になってきた。国立国会図書館も、WEB 版でリサーチナビを配信しており、今後さらに WEB 版での図書館サポートも広がっていくと考えられる。

○愛知医科大学と地域公共図書館の連携パスファインダー

行政との連携は、行政に対しても図書館をアピールする場に繋がる。

○図書館のハイブリッド化

印刷資料とインターネット等を組み合わせた高度な情報提供。

- ・豊富なテーマ展示をネットでも発信。(ゆうき図書館(茨城県))
- ・IT活用—HPとブログで情報発信(加治木高校)
- ・てくてくライブラリアン(指宿・山川図書館スタッフブログ)

○質疑応答

活発な意見交換がなされた。